

留学先国名 : オランダ

留学先学校名 : Utrecht University

留学期間 : 平成 28 年 9 月 1 日 ~ 平成 29 年 6 月 30 日

留学前は、何でも広く浅くするタイプで自分の好みや思考を完全には把握できていなかった。留学で全く異なる文化や考え方の人々と長い時間を過ごし、様々な経験を重ねたことで、自分がどういう思考をし、どういったことに惹かれるのかが以前より明白になった。また、アジア人が少ない環境であったため、自らが圧倒的にマイリティな中、堂々と自分を主張する度胸がついた。学習面では、自分の大学とシステムが全く異なり、今までとは違う角度から専門分野を学ぶことができた。日本では日本からの見方を中心に学んできたが、バラエティに富んだ学生との議論を通して、他の見方を深く学ぶことができた。また、ユトレヒト大学ではアジア研究はあまり盛んではないので、あたかも自分が代表といった形でアジアのことを発信し、それに対して意見をもらえたことも良い経験となった。

授業では“social media in the public sphere（公共空間におけるソーシャルメディア）”が最も印象に残っている。この授業はソーシャルメディアと政治の関わり方を学問的に文献などから考察するとともに、自らソーシャルキャンペーンをSNSを用いて立ち上げるというものであった。私は、オランダ人 2 人、スペイン人 1 人と“Eat Less Meat（肉を食べる量を減らそう）”というキャンペーンを実際にソーシャルメディア上で行った。これは、ベジタリアンになることを強要するわけではなく、一週間のうち一日だけでも食べないようにするなど、ほんの少しだけでもいいので肉を食べる量を減らしてみよう、というメッセージを社会に送ることを目的としている。肉食が環境、健康にもたらす影響、美味しいベジタリアンメニューをSNS上で発信することで、人々の肉食に対する問題意識を喚起し、また肉を使わなくても美味しいものはたくさんあり、肉が不可欠だというわけではないことを伝えようとした。SNSというツールを使うことで、世界の広い範囲に働きかけることができた。結果、20カ国以上の人から支持を得ることができた。日本に限らず、世界という広い範囲に働きかけることは初めてであり、とてもやり甲斐があった。自分たちが意図するメッセージが上手く受け取り手に伝わらず、またメンバー間での価値観の相違など、苦労する点も多かった。しかし、授業で学んだことを実際に使い、そこからより深い理解と新しい知識を得られることができた。また、自分も小さい力ながら、世界に何か発信することができるのだと実感できた。

留学では、本当に様々な背景をもつ人と交流することができた。主に、寮生活とクラブ活動、地域コミュニティへの参加を通して経験することができた。

まず、寮は二人部屋かつ、12人（計7カ国）でのフラットシェアであったため、様々な国の生活スタイルが狭い空間に混在していた。掃除面などの問題のためにミーティングを行うことも多々あった。しかし、文化の違いで終わるのではなく、良いところは受け入れ、また妥協し合ったりすることで、私たちのフラットの中で新しい文化を築くことができた。最終的にはとても良い空間にすることができた。

次に、現地のバドミントンクラブに所属したことである。クラブは基本的にユトレヒトにある大学の正規生が多く、現地の学生との交流機会も多かった。入部時期が他の人と異なったこととオランダ語を話せないた

め、最初はメンバーがあまり関心を向けてくれなかった。しかし、試合にいろんなメンバーを誘ったり、オランダ語でのカウント方法や声掛けなどを学び、実際に使ってみたりするなど、自ら積極的に働きかけることで、一年限りの期間限定のメンバーとしてではなく、クラブのれっきとした一員として認めてくれるようになった。

最後に、Language Café という地域コミュニティにも参加したことである。学生や社会人等様々な年齢層と交流する機会があった。そのコミュニティは、オランダ人はもちろん、他の EU 加盟国から働きに来た人、シリアからの難民など非常にバラエティに飛んでいた。そういった方たちと話すことで EU 圏内での流動性の高さ、また移民問題などを直接議論することができた。また、日本について聞かれることも多く、自分が当たり前であると思っていたことにも疑問を抱くようになった。全く異なる境遇の人と接することで、自分のことを理解することに繋がった。異なる背景を持つ人々と一緒にテーブルを囲んで話すことで、差異や共通することを共有できたことは自分の大きな財産となった。

留学以前はメディアを志望していたが、留学中の学びを通して疑問に思うことも多く、今は他の方法でグローバルな問題に関わりたいと思っている。ユトレヒトが持続可能エネルギーなどの環境問題に熱心に取り組んでおり、周りに環境分野を専門としている人が多かったこともあり、そういった問題に文系ならではの方法でアプローチしたいと考えている。留学で得た、自分の身の回りだけではなく遠くの地のことも考える力、当然のこととして受容するのではなく、疑問を持ち、それを追求する力、異なった考え方を理解する努力をした上で批判、受容をする力。これらは今後必ずグローバルに働く上で役立つと考えている。

留学当初は何をとっても一からのスタートである。今までと異なる環境に戸惑うことも多いと思う。私も、着いた当初は毎日が大変で、スーパーで一つのりんごを買うというほんの小さなことにさえ骨を折っていた。しかし、大変ではあったが、それ以上に新しい挑戦が周りに転がっており、自分の成長がすぐに感じられることがとても嬉しく、毎日充実感で溢れていた。そういった環境を楽しむことが留学においてとても大切であると私は思う。日本から遠くはなれており、ほとんど誰も自分のことを知らない地。失敗しても、恥ずかしがるようなことは何もない。これから留学する方には、何事にも果敢に挑戦してほしいと思う。